

2006 年度

科目名 演習 I	対象学科・学年 文学部日文3回生	担当者 高橋 圭一
授業テーマ 江戸の戯作を注釈する。		
授業の概要と目標 黄表紙がどういう作品であるかということについては、昨年秋に配布したマニュアルをよく読んでおいてください。授業は、黄表紙の代表的な作品数点を、全員で少しずつ分担して注釈を付けるという輪読（りんどく）形式で進めます。最初に発表の見本を示し、段々と参考書も紹介します。それらの参考書に目を通した上で、注釈に使える本（工具書といえます）を図書館中から探し出してください。		
評価方法 年間3～4回の発表の出来、及びその準備に費やした手間隙（プリントを見れば一目瞭然です）によって評価します。出席も重視します。他の受講生の発表を聞かないような失礼な人には単位を出しません。		
テキスト 講義の最初に指定します。作品によって変更する場合もあります。	著者	出版社
参考書 授業中、随時紹介します。必ず図書館で実物を確認してください。（ただし時には無いこともあります）	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1、講義 草双紙（黄表紙は草双紙のある時期の作品群を指す名称です）について。その大まかな歴史。 2、 続き。 3、 続き。 4、講義 黄表紙の代表的作家とその作品。 5、 続き。 6、講義 注釈とはどういう行為か。（単純な作業などではありません） 7、模範発表・工具書紹介。 8、 続き。 9、受講生の発表、全員による質疑応答。その1『金々先生栄華夢』（キンキンセンセイエイガノユメ） 10、 " " "（最初の作品は時間がかかります） 11、 " " " 12、 " " " 13、 " " " 14、 " " " 15 夏休み前に、歌舞伎のビデオを観ましょう。歌舞伎の知識が、江戸文学の注釈には必須ということは、もうわかっているはずです。 16、受講生の発表、全員による質疑応答。その2『親敵忤腹鼓』（オヤノカタキウテヤハラヅツミ） 17、 " " "（私の好きな作品） 18、 " " " 19、 " " " 20、 " " " 21、 " " " 22、 " " "その3『江戸生艶気樗牛』（エドウマレウワキノカバヤキ） 23、 " " "（黄表紙の最高傑作） 24、 " " " 25、 " " " 26、 " " " 27、 " " " 28、 " " " 29、 " " " 30、 図書館で黄表紙のマイクロフィルムを見ましょう。驚くほどたくさんあります。		